【特別展】古地図でめぐる三都〈エド・キョウ・オオサカ〉

2025年7月5日(土)～8月31日(日)　※特別展「銅鐸とムラ」と同時開催

洛外鳥瞰図屏風(右隻)　江戸時代前期　当館蔵(南波松太郎コレクション)

江戸時代には武士の集住化や商品流通の発達などにより、都市の人口が増加しました。こうしたなかで、都市の内部を描いた「都市図」が生み出されます。とりわけ、江戸、京、大坂の三都では、多くの都市図が作製・出版され、世に広まりました。

都市図はその詳細な描写から、当時のまちの様子を伝えるとともに、複数の図を見比べることで、まちの移り変わりを知ることもできます。さらに、描かれた図を探っていくと、当時の政治や社会、文化などの背景を読み取ることもできます。

本展では、神戸市立博物館所蔵の都市図から、江戸時代の三都をめぐります。

神戸市立博物館

〒650-0034　神戸市中央区京町24番地
TEL.078-391-0035　FAX.078-392-7054
https://www.kobecitymuseum.jp/

利用案内

開館時間：午前9時30分～午後5時30分
※金、土曜日は午後8時まで開館
(2F、3Fの展示室への入場は閉館の30分前まで)

休　館　日：毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)

※年末年始のほか、整備休館など臨時に休館及び開館することがあります。
詳細はホームページか、博物館までお問い合わせください。
高校生以下は無料です。

神戸市立博物館は、昭和10年(1935)に建築された旧横浜正金銀行神戸支店を増改築し、昭和57年に開館しました。御影石の外装を施した新古典主義様式の建物で、平成10年(1998)に国の登録有形文化財(建造物)になりました。

アクセス

■JR「三ノ宮」、阪急・阪神「神戸三宮」、ポートライナー・地下鉄(西神・山手線)「三宮」から南西へ徒歩約10分
■新幹線「新神戸」から神戸市営地下鉄(西神・山手線)で「三宮」下車
■神戸空港からポートライナーで約18分、「三宮」下車
■JR、阪神「元町」から南東へ徒歩約10分
■地下鉄(海岸線)「旧居留地・大丸前」から南東へ徒歩約8分

KOBE UNESCO City of Design

X・Facebook　@kobemuseum
Instagram　kobemuseum
神戸市立博物館公式ホームページ▶

神戸市立博物館No.126　発行年月日：令和7年(2025)3月28日

展覧会スケジュール　2025.4 — 2025.8

2025年	4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August

特別展 2・3階

4/26(土)～6/15(日)
【特別展】蒐集家・池長孟の南蛮美術－言葉から紡ぐ創作(コレクション)

7/5(土)～8/31(日)
【特別展】銅鐸とムラ―国宝 桜ヶ丘銅鐸をめぐる弥生の営み―
【特別展】古地図でめぐる三都〈エド・キョウ・オオサカ〉

コレクション展示 2階

国宝　桜ヶ丘銅鐸・銅戈群　実物展示

重要文化財　聖フランシスコ・ザビエル像　実物展示 ■4月26日(土)―6月15日(日)

※その他の期間は複製展示

4/1(火)～6/15(日)

賑わいを描く―近世初期風俗画

池長孟コレクションの中から近世初期風俗画を一堂にお披露目します。桜を愛で、舞に興じる様子、能を観賞する場面…人々の営みを描いた作品から、当時の賑わいをぜひ会場で体感ください。　※会期中、一部展示替えがあります。

「花下群舞図屏風」(左隻・部分)
狩野派　桃山時代、17世紀初期　池長孟コレクション
※展示期間：4月26日(土)～6月15日(日)

池長孟コレクションの世界地図

池長孟コレクションといえば南蛮美術…というイメージですが、実は池長は、対外交流関係資料の一つとして古地図にも着目し、蒐集していました。世界地図を中心に、池長孟コレクションの古地図をご紹介します。

「万国絵図・万国人物図」
江戸時代、17世紀前期　池長孟コレクション

細部に宿る美学―池長孟と紅塵荘(こうじんそう)

当館美術コレクションの礎を築いた池長孟が、昭和3年(1928)に自邸として建築した紅塵荘。今はなき昭和モダニズム建築に宿る池長の美学を、受け継がれたステンドグラスや家具、室内装飾などから探ります。

「紅塵荘 ステンドグラス 円形獅子文」
昭和2～3年(1927～28)頃

異国反照―池長孟コレクションのガラス

空気のように透き通った美しいガラス。江戸時代、それらを覗き込んだ時に映ったのは自分の顔ではなく、異国の風景であったかもしれません。池長孟コレクションから、異国情緒あふれるガラス器をご紹介します。

「グラヴュール V.O.C.マーク入り吊り行灯」
江戸時代、18世紀後期　池長孟コレクション

7/5(土)～8/31(日)

浜本陣の記録―「安田家文書」受贈記念展

江戸時代、交通の要所であった兵庫津には、特定の大名と関係を結んで兵庫での宿泊業務を担う「浜本陣」がありました。このたび、肥後熊本藩の浜本陣であった安田家(網屋惣兵衛家)の「安田家文書」受贈を記念し、本文書群から、浜本陣の営みを語る史料を一堂に展観いたします。

「兵庫御宿網屋惣兵衛浄勢立文案」
寛文7年(1667)2月21日

金魚を愛でる器

透過性のあるガラスの器は、色鮮やかな金魚を愛でるうえでもぴったりです。金魚を飼育するための器は、形や大きさも様々。みなさんのお気に入りの金魚玉や金魚鉢を会場でみつけてください。

「太鼓形板ガラス張り金魚入れ」
明治時代(1898～1912)
びいどろ史料庫コレクション

神戸の歴史展示 地域文化財展示 1階

神戸の歴史展示　海や港を介して営まれた神戸の歴史と文化交流について、年代別に展示しています

4/1(火)～6/15(日)

敦盛(あつもり)追悼！

福祥寺(須磨寺)所蔵の平敦盛像が県指定重要有形文化財に指定されたことを記念して同作を展示し、源平一の谷合戦の悲劇の武将・敦盛のイメージに込められた願いを今一度読み解きます。

狩野久蔵筆
「平敦盛像」
天正18年(1590)
福祥寺(須磨寺)蔵

7/5(土)～8/31(日)

絵巻からみる神戸の歴史

紙や絹をつないだ長大な画面に情景や物語などを連続して描く「絵巻」。当館が所蔵する、神戸の歴史を描いた絵巻を紹介します。

「小敦盛絵巻」　安土桃山時代、16世紀後期

【休館日】	4/7・14・21～25・28	5/7・12・19・26	6/2・9・16～30	7/1～4・7・14・22・28	8/4・12・18・25

博物館だより

2025 No.126

KOBE CITY MUSEUM　神戸市立博物館

【特別展】
蒐集家・池長孟の南蛮美術
―言葉から紡ぐ創作(コレクション)

2025年4月26日(土)～6月15日(日)

「神戸市立博物館のコレクションといえば?」と問かれたとき、本作品を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。日本にキリスト教を布教した宣教師の一人、聖フランシスコ・ザビエルの肖像画として、教科書でもお馴染みです。神戸出身の池長孟が蒐集の対象とした、外国の影響を受けてつくられた日本の美術品、いわゆる南蛮美術を象徴する作例です。

重要文化財
聖フランシスコ・ザビエル像(部分)
江戸時代、17世紀前期　紙本著色
当館蔵(池長孟コレクション)

【特別展】蒐集家・池長孟の南蛮美術―言葉から紡ぐ創作（コレクション）

2025年4月26日（土）～6月15日（日）※会期中、一部の作品は展示替えがございます。掲載作品は全て通期展示です。

当館の美術コレクションの核ともいえる国指定重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」、狩野内膳「南蛮屏風」、「泰西王侯騎馬図屏風」などは、池長孟（いけながはじめ）（1891－1955）が蒐集したものです。池長が蒐集対象としたのは、外国に影響を受けて日本でつくられた美術品、いわゆる「南蛮美術（なんばんびじゅつ）」です。昭和15年（1940）には、自身のコレクションを広く市民に共有するために、私財を投じて神戸の熊内（くまうち）に池長美術館を開館。そのコレクションへの情熱は、彼の自著、及びその草稿、日記、友人との手紙などからもうかがえます。本展では南蛮美術の名品とともに、未公開の関係資料を採り上げることで、池長孟の活動をあらためて検証します。

「池長孟肖像写真」
昭和時代前期、20世紀前期　当館蔵

池長孟の言葉と創作（コレクション）

池長は昭和2年（1927）8月11日、大阪の「べにや美術店」で購入した2点の長崎版画を皮切りに、南蛮美術コレクションを築いていきました。友人との手紙のやりとりや日記などに遺る池長のコレクションへの思いとは…。

「魯西亜船」　江戸時代、19世紀
当館蔵（池長孟コレクション）

例えば、自著『南蛮堂要録』（1940）では、奈良の旧家で発見された狩野内膳「南蛮屏風」を前に「金色燦爛たる上を躍動する南蛮船南蛮人を見てどれ程の感激にふるへたか」と、その感動を今に伝えています。南蛮屏風を入手した日、「泰西王侯騎馬図屏風」の購入の話もまとめた池長は、「自筆備忘録」において「これこそ生涯の最も深い思ひ出」とも述べています。

重要文化財　狩野内膳　「南蛮屏風」　桃山時代、16世紀末から17世紀初期　当館蔵（池長孟コレクション）

「池長美術館外観写真」（部分）
昭和15年（1940）頃　当館蔵

南蛮美術コレクションへの思い

昭和23年（1948）、兵庫県文化賞を受賞した池長は、「私自身はどうでも、もっとこの南蛮美術を認識し賞嘆してもらひたい」（「自筆備忘録」）と、自身のコレクションについて思いを吐露しています。

「南蛮美術」という特色のある美術コレクションを築いた池長の功績（こうせき）。それを広く伝えていくことも、当館の使命の一つといえます。

「昭和十九年美術館日記」
昭和19年（1944）　当館蔵

没後（ぼつご）70年の節目となる2025年、神戸に遺る池長孟コレクションの意義を考える機会となれば幸いです。

神戸歴史見聞録　肆拾　40

このコーナーでは、知られているようであまり知られていない神戸の歴史について、博物館ならではの視点でご紹介します。

NEWSCOLUMN 40　垂水区（たるみく）　五色塚古墳（ごしきづかこふん）

今回の見聞録の舞台は、神戸の西の玄関口、明石海峡大橋がかかる垂水区です。垂水区には、縄文時代から中世にかけての遺跡「垂水日向遺跡（たるみひがい）」や数々の古墳が所在していますが、そのなかでも一際目を引く遺跡が「五色塚古墳」です。

この古墳は、4世紀後半（古墳時代前期）に築造された前方後円墳で、その全長は194メートル。実は、兵庫県内最大の古墳です。3段に積み重なった墳丘の形に沿って、段ごとに鰭付円筒埴輪（ひれつきえんとうはにわ）・鰭付朝顔形埴輪（ひれつきあさがおがたはにわ）がぐるりと並び、その数は2,200本と推定されます。そして、墳丘の表面を覆う葺石（ふきいし）は、垂水周辺だけではなく海を挟んだ淡路島から運んできたものも含め2,800トン近くの石を利用しています。

史跡「五色塚古墳」　写真提供：神戸市文化財課

現地で墳丘に登れば、目の前には船が行き交う明石海峡が一望できます。古墳が築造された場所は高台（たかだい）で、当時は海上の船からもよく見えていたことでしょう。また、本州と淡路島が最も接近した海上交通の要衝でもあることから、この一帯を治める有力者を葬った墓と考えられています。

江戸時代の絵図などには墳丘上に木々が生えた姿で描かれ、様々な人々が訪れていたとわかっています。

そして、大正10年（1921）には国の史跡に指定されました。しかし、第二次世界大戦中は墳丘の木々を利用するために伐採、戦後は畑として開墾されたために、荒れ果ててしまいました。この状況を変えるべく、古墳を守ろうという多くの人の働きによって、昭和40年（1965）から10年かけて発掘調査・復元整備が行われました。五色塚古墳は、昭和50年に大型前方後円墳としては日本ではじめて築造当時の姿に復元整備され、古墳公園として開園しました。今年（2025）は、その史跡整備50周年という記念すべき年です。

多くの人に親しまれてきた五色塚古墳。ぜひ、天気のいい日に訪れてみてはいかがでしょうか。

ワンポイント

博物館では五色塚古墳出土の鰭付円筒埴輪を展示しています。それと合わせて注目していただきたいのは、古墳全体を見渡せる1/100スケールの復元ジオラマです。鳥になった気持ちでご覧いただけます。

博物館1階　「神戸の歴史展示室」

【特別展】蒐集家・池長孟の南蛮美術―言葉から紡ぐ創作（コレクション）／神戸歴史見聞録

特別展　銅鐸（どうたく）とムラ―国宝 桜ヶ丘銅鐸をめぐる弥生の営み―

2025年7月5日（土）～8月31日（日）

詳しくはこちらでチェック

神戸市立博物館が所蔵する桜ヶ丘銅鐸・銅戈（どうか）群は、昭和39年（1964）12月10日、神戸市灘区桜ヶ丘町にて偶然発見されました。銅鐸14点と銅戈7点の複数埋納、両面に絵面をあらわした銅鐸の希少性から、昭和45年に、一括して国宝に指定されます。

本展では、国宝　桜ヶ丘銅鐸・銅戈群の発見から現在までの歩みを辿るとともに、桜ヶ丘銅鐸の特徴の一つである銅鐸の複数埋納の意図を考えます。さらに、桜ヶ丘銅鐸・銅戈群と同様に六甲山南麓地域から出土した銅鐸や、同地域などから発掘された資料もあわせて展示し、改めて桜ヶ丘銅鐸・銅戈群の魅力と当時の人々のくらし―弥生の営みをご紹介します。

複数埋納事例として有名な国宝・重要文化財の銅鐸が集結！

銅鐸は、弥生時代の社会において農耕に関わる祭器（まつりの道具）であったと考えられています。しかし、遺跡の外で工事中に偶然発見されることが多く、使用時期や埋納時期の判別が難しい資料です。多くは単体での出土ですが、桜ヶ丘銅鐸の様に複数の銅鐸がまとまって見つかることがあります。製作年代の異なる銅鐸を同時期に複数埋めるということにはどのような意味があるのでしょうか。同じく複数埋納の例として知られる国宝「加茂岩倉銅鐸」（島根県）、重要文化財「大岩山銅鐸」（滋賀県）、重要文化財「柳沢銅鐸・銅戈」（長野県）とともに見ていきます。

「発見時の加茂岩倉銅鐸」
写真提供：島根県埋蔵文化財調査センター

重要文化財　「柳沢2号銅鐸」　弥生時代　中野市立博物館蔵
重要文化財　「大岩山4号銅鐸（昭和37年出土）」　弥生時代　滋賀県立安土城考古博物館蔵

大集合！六甲山南麓地域に埋められた銅鐸

芦屋市指定文化財　「流水文銅鐸」
弥生時代　親王寺蔵

「扁平紐式銅鐸（渦森銅鐸）」
弥生時代　東京国立博物館蔵

桜ヶ丘銅鐸・銅戈群が発見された六甲山南麓は、銅鐸が集中して出土する地域として古くから知られています。多くは丘陵の斜面地から偶然見つかっていますが、神戸市東灘区本山遺跡・北青木遺跡といった平地の遺跡の発掘調査での出土も確認されています。本展では、桜ヶ丘銅鐸・銅戈群が発見された周辺で見つかっている銅鐸をご紹介します。県内外で所蔵されている六甲山南麓から出土した銅鐸が一堂に会する、またとない機会となるでしょう。

銅鐸とともに生きた人々のくらし―弥生の営みを最新の発掘調査事例も交えてご紹介

「城ヶ谷遺跡」　写真提供：神戸市文化財課

今から約2,000年前の銅鐸が盛んに用いられた時代、六甲山南麓の急峻な斜面上では集落〈ムラ〉が数多く営まれました。人々のくらしや銅鐸との関わりはどうだったのでしょう？六甲山南麓および同様に多くの集落〈ムラ〉が高所に営まれた明石川流域の様子や、銅鐸に関わりをもつ集落〈ムラ〉を、最新の発掘調査事例も交えて探ります。

「北青木遺跡出土土器」
弥生時代　神戸市蔵

「伯母野山遺跡出土石器」
弥生時代　当館蔵

【特別展】銅鐸とムラ―国宝 桜ヶ丘銅鐸をめぐる弥生の営み―